

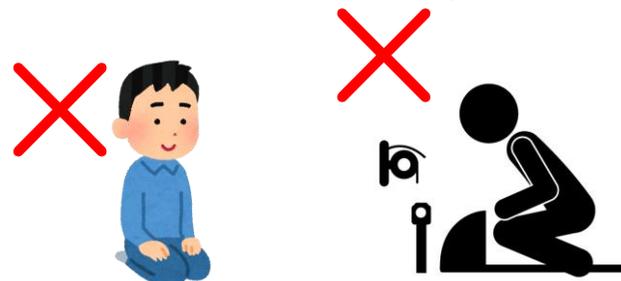
インフューザーポンプを使用して 在宅で治療を受けられる方へ (肝動注編)



治療と生活のポイント

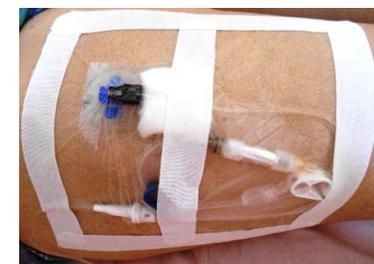
【リザーバー留置後の注意について】

- リザーバー留置後は、足を大きく曲げることを繰り返すことで、カテーテルの断裂をきたす可能性があります。激しい運動や正座、和式便所の使用など、ポートを挿入している方の右足を大きく曲げる動作は控えてください。
- 治療中は、なるべく動かさないようにしましょう。



【治療中の服装について】

- 治療中は、基本、右足の太ももに針を留置して固定します。着衣の上げ下げがしやすいよう、トランクスやゆとりのある下着、スエットなどゆとりのあるズボンを着用してください。また、スカートの場合などは、タイツやストッキング等は着用しないでください。
- 服を着替えるときも、ルートをはひっぱり、ひっかけたりしないよう気をつけてください。



【入浴について】

- 治療中の入浴はできません。洗髪や部分シャワー浴は可能ですが、感染予防のために、ポート部分を濡らさないように気をつけてください。治療中は、身体を拭くことをお勧めします。
- インフューザーポンプやルートも中に水が入る可能性があるため、濡らさないように気をつけてください。
- 針を抜いた当日はシャワー浴できます。入浴は翌日からになります。ポート部分は強くこすらないように気をつけてください。

【治療中のインフューザーポンプの取り扱いについて】

- 在宅で5日間治療を継続します。
- インフューザーポンプは専用のポーチに入れ、肩から下げてご使用ください。
- 落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。
- 定期的に薬液が減っているか、必ず確認してください。ポンプのゴムのしぼみ具合や、はかりを使用して確認をする方法があります。(別紙あり)
- センサー部分の温度により、速度を一定に保つため、治療中はこたつや電気毛布の使用は控えてください。

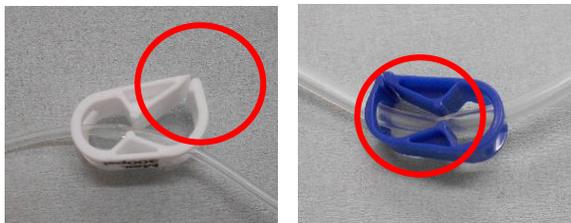


【就寝時の取り扱いについて】

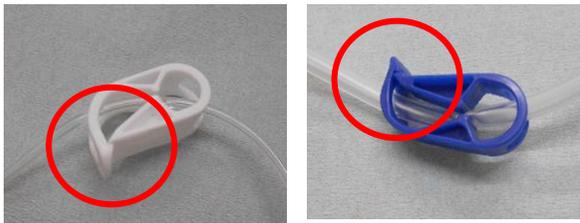


- 就寝前に固定のテープがはがれていないか、ルート接続から薬液が漏れていないか、ルートが曲がっていないか、クレンメ(青・白)が閉じていないか確認してください。

<クレンメが開いている状態>



<クレンメが閉じている状態>



- インフューザーポンプやルートが身体の下にならないように、気をつけてください。ポーチに入れて肩から下げたまま寝るとからまらず安全です。肩からはずして寝る場合は、枕元の方に置いてください。

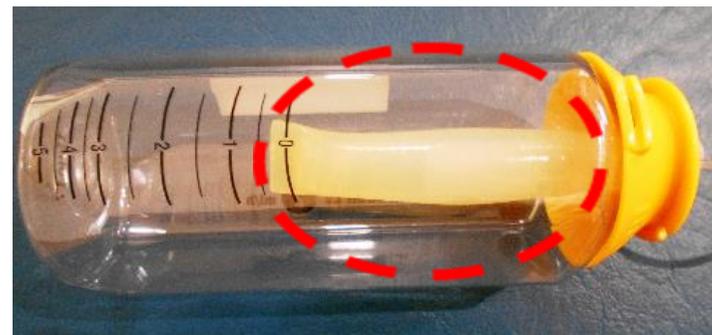
【5日間の治療終了時の対応について】

- ポンプをつけてから5日間(120時間)経過した予定時刻に、ポンプのゴムのしぼみ具合を確認します。
- ポンプのゴムの表面に突起がみえず薬液が残っていても、予定時刻には固定テープの上からクレンメ(青・白)をしっかりと閉じてください。



- 固定テープははがさず、針やポンプをつけたまま、受診予定日に外来にお越しください。病院でルート内を洗浄後、針を抜きます。
- 薬液が残っていた場合(ポンプの残量を測定します)や終了予定前に早く終わってしまった場合などは、受診の際に主治医にお伝えください。

<ポンプのゴム表面に突起がみえないので、まだ薬液が残っている状態>



緊急時の対応について



※下記のようなことがあった場合、病院へ連絡してください。

① 固定していたテープがはがれてきた

はがれてきた部分を上から補強してください。使用するテープは事前に購入していただきます。

② 時間がたってもポンプの中の薬剤が減らない

まず、ルートを確認します。

途中でルートが折れていませんか？

→ルートの折れ曲がっていた部分を直し様子を見ます。

クレンメ（青・白）が閉じていたりしていませんか？

→クレンメ（青・白）を開けて様子を見ます。

このようなことがなく薬剤が減らないときや、様子を見ても薬剤が減らないときは、病院へ連絡後、すぐに来院してください。



③ ルートの中に血液が流れ込んできた

まずは、慌てずクレンメ（青・白）を閉じてください。カテーテルが閉塞してしまうおそれがあるので、病院へ連絡後、すぐに来院してください。

④ ルートの接続から薬剤が漏れてくる、接続がはずれてしまった、ルートが切れてしまった

薬剤が残っている場合でも、空気の混入予防と清潔保持のために、クレンメ（青・白）を閉じて、病院へ連絡後、すぐに来院してください。

はずれた部分にはタオルなどをまき、はずれてしまったルートやポンプは、ジッパーのついた袋に入れ、密閉した状態で病院へお持ちください。

なるべくビニール手袋を使用し、直接薬剤が皮膚に触れないように取り扱ってください。薬剤が手についた場合は、石鹸を使用し、水道水で手を洗ってください。

⑤ 注入中に皮膚が腫れたり、熱感、発赤や痛み、違和感がでてきた

薬剤が漏れている可能性があるため、クレンメ（青・白）を閉じて、病院へ連絡後、すぐに来院してください。

⑥ 針が抜けかかっている

クレンメを閉じて、病院へ連絡後、すぐに来院してください。

⑦ 針が抜けてしまった

刺入部をアルコール綿で消毒し、出血がないかを確認し、絆創膏を貼ってください。（出血が止まらない場合は、5分ほど圧迫してください）

なるべくビニール手袋を使用し、直接薬剤が皮膚に触れないように取り扱ってください。薬剤が手についた場合は、石鹸を使用し、水道水で手を洗ってください。

クレンメ（青・白）は閉じて、ポンプやルート、針はジッパーのついた袋に入れ、ビニール袋に入れてから、タッパーなどの硬い容器に入れ密閉した状態で病院へお持ちください。

病院へ連絡後、すぐに来院してください。

⑧ ポンプが破損してしまった

空気の混入予防と清潔保持のために、クレンメ（青・白）を閉じて、破損したポンプをジッパーのついたビニール袋に入れ、病院へ連絡後、来院してください。なるべくビニール手袋を使用し、直接薬剤が皮膚に触れないように取り扱ってください。薬剤が手についた場合は、石鹸を使用し、水道水で手を洗ってください。

⑨ ポートの部分の皮膚が赤くなっている／発熱がある

ポート部分の皮膚の発赤やかゆみ、熱をもっているなど、いつもと違う症状があるときや、38℃以上の発熱がある場合には、感染などの可能性がありますので、病院に連絡してください。

⑩ お腹や背中に痛みやほりを感じる

カテーテルを入れた血管が詰まってしまったか、胃や十二指腸に抗がん剤が流れている危険性があります。このような症状が現れた場合には、クレンメ（青・白）を閉じて、病院へ連絡後、すぐに来院してください。

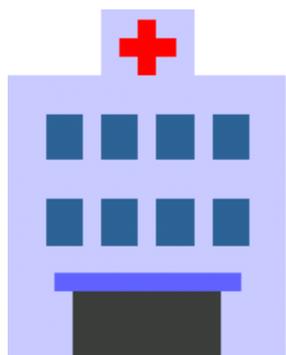
<連絡先>

成田赤十字病院（代表）

電話：0476-22-2311

平日の朝8時半～夕方5時 } 内科外来

上記以外の時間、
土曜、日曜、祝日 } 救急外来



※連絡の際に伝えていただきたいこと

- 名前
- 在宅で化学療法を行っていること
(動注ポートが入っていること)
- トラブルの内容
- 現在の症状
- 診療科、担当医師（主治医）
- 診察券番号

平成30年1月26日 作成

薬剤の減り方の確認方法

※就寝時、起床時、昼食後など、1日に3回を目安に、薬剤が減っているか確認して下さい。

以下の方法により、薬液が順調に注入されているか推察することができます。

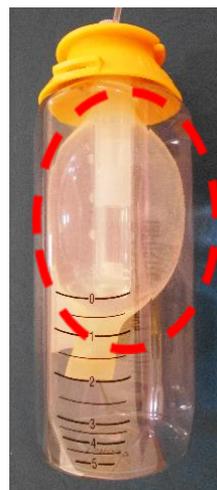
- 目視で確認する場合：ポンプのゴムのしぼみ具合を確認します。マジック等でしるしをつけると分かりやすいです。
- はかりで確認する場合：重さの減り具合を確認します。使用するはかりは、専用とすることが望ましいです。

※インフューザーポンプ本体（チューブを除く）の重さは56gになります。ゴムの表面に突起が現れたら薬液が終了したしるしです。

※ポンプの残量の確認とともに、ポート部分の皮膚の状態も観察しましょう。（皮膚の発赤、腫れ、熱感、痛みなどがないか）



開始時



投与中に確認

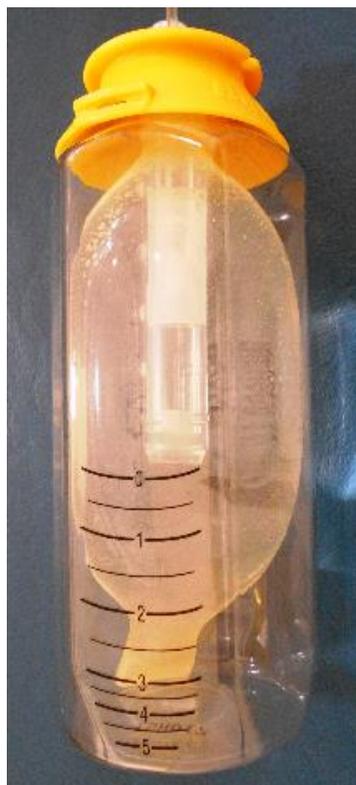


突起が現れたら終了

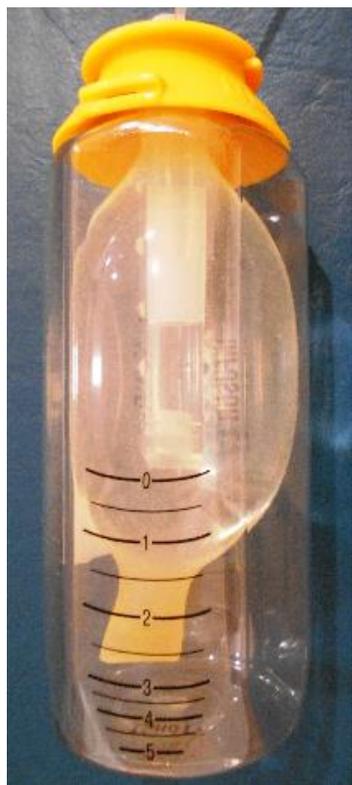
平成30年1月26日 作成

平成30年7月10日 改訂

薬剤の減り方の一例



開始時



24時間後



48時間後



72時間後



96時間後



120時間後